

【やくの農業振興団】

(1) 設立目的：不耕作田を発生させず「農家農村を守る」為に第三セクター方式で設立（「米づくり」には一切かかわらず「転作物」に取り組む）

- (2) 事業内容：①農産物の生産・加工・販売に関する事業
 ②農林業作業等の受委託に関する事業
 ③公共団体が行う管理・受委託に関する事業
 ④農林補助事業の事務・経営等の受託に関する事業
 ⑤地域産業資源を活用した生産・加工・販売に関する事業
 ⑥農林業に関する資材等の販売・斡旋に関する事業

項目	中期経営計画	取組内容	取組結果	評価結果
合目的性	<p>【福知山市】 ○同社が地域に根差した農業法人として、また、経済の動向や顧客ニーズに素早く対応できる民間事業者として、同社の経営が安定し累積赤字が解消されるような株式の処分方法なども検討し、外郭団体としての位置づけの早期解除をめざし関係者との協議を実施したが了承は得られず、引き続き協議を継続する。</p>	<p>●外郭団体解消の前提となる同社の累積赤字が解消されるよう、経営の効率化・安定化を促す。</p> <p>【R5取組】 外郭団体としての位置づけ解消に向け継続して役員との協議を行う。</p>	<p>・同社の累積赤字は減少しており、令和5年度には累積赤字は解消した。外郭団体としての位置づけ解除には至っていない。</p> <p>・累積赤字の状況（繰越利益剰余金） R 3：△1,576千円 R 4：△815千円 R 5：1,709千円</p>	一次評価（団体自身の評価）
				<p>◎役員の中なかでも、外郭団体としての解除について意見がまとまっていない。</p> <p>◎蕎麦の需要増加や経費削減により、徐々に累積赤字が減少傾向にある。</p>
採算性	<p>【やくの農業振興団】 ○自律的に継続して安定した経営を行うため、経営の効率化・安定化を図ることを主眼に以下の3点を定める。</p> <p>①経営効率化 ・事業評価や事業計画のモニタリングにより適切に自己評価を行う。 ・経営改善に資する自主事業や収益事業を積極的に行う。</p> <p>②組織・運営体制 ・役員数や構成、事務局体制は団体規模や事業内容に相応しい規模とする。 ・企業経営や団体運営に精通した人材確保など多様な人材活用を図る。 ・経営責任を明確にし、自らの責任において事業を実施する。など</p> <p>③資金運用及び出捐金の活用 ・具体的な活用方法や計画に加え、新たな積立など財務目標を明確にする。</p>	<p>●自律的に継続して安定した経営を行うため、経営の効率化・安定化を図る。</p> <p>【R5取組】 蕎麦を中心として、売上向上のための市場が求める商品開発、提案に取り組む。また、蕎麦の生産面積の拡大、酒造好適米「祝」の契約栽培の面積拡大をし、安定収入の確保に取り組む。</p>	<p>・飲食店の利用回復の中、業務用冷凍なまそばの需要が増加し安定した収入となった。</p> <p>・蕎麦の生産拡大により、玄そば供給及び作業受託料の向上が図れた。</p> <p>【各年度の状況（ ）内はR5計画値】 ・蕎麦作付面積①、蕎麦加工品販売額②、玄そば販売額③の状況 R 3：①430a (430a) ②24,422千円 (24,000千円) ③2,592千円 (2,000千円) R 4：①800a (663a) ②28,173千円 (25,000千円) ③623千円 (3,000千円) R 5：①1030a (1,200a) ②25,425千円 (28,000千円) ③4,410千円 (2,000千円)</p> <p>・酒造好適米「祝」作付面積①、販売額② R 3：①44a (44a) ②270千円 (600千円) R 4：①150a (171a) ②1,603千円 (2,000千円) R 5：①300a (300a) ②3,007千円 (3,200千円)</p>	二次評価（市所管課評価）
				<p>・外郭団体としての早期解除については、現段階で法人内役員の中なかで意見がまとまっていないものの、継続して協議は行われている。</p> <p>・蕎麦、酒造好適米（祝）については作付面積を拡大し、蕎麦については令和5年度実績で過去最高収量を得ることができた。</p> <p>・安定した収入確保のため、営業活動等にも引き続き取り組んでいる。</p>